

平成29年度 事業報告書

(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)

学校法人 中国学園

大学・短期大学を取り巻く情勢及び本学が目指す方向性

持続的な社会の発展に貢献する人材育成を目指す大学を取り巻く環境は大変厳しく、社会の活力の低下や人間関係の希薄化、さらには少子化も加わって、特に規模の小さい地方の大学にあっては、存続そのものが問われてきている。思い切った発想の転換をし、これまでとは違った新たな考え方・仕組みを取り入れて、本学独自の特色を明確にして地域や高校教育界などにアピールしていかなければ、上昇への道をたどることはできない。改革への意識向上と団結力が最も求められる時代となっている。

グローバル化や絶え間ないイノベーションが進む「知識基盤社会」では、持っている知識量だけではなく、その知識を活用して、異なる背景や文化を持つ他者と協働して課題を発見し解決する能力（「21世紀型能力」「ジェネリックスキル」）の重要性が高まっている。

本学は、教育理念として、「あたたかい心」「ひらめく英知」「たえぬく努力」を掲げているが、今後の社会の変化に対応する基礎力を育て、社会に充分寄与できる人材の育成に一層努める。本学の建学精神として、教育理念である「心・英知・努力」を統合化するものとして、「全人育成」を掲げている。学生の精神的・道徳的・文化的・心理的・身体的発達を促進し、成人として社会生活に必要な資質・態度を備えたバランスのとれた人材を育成する。

2015年度から新設した国際教養学部にあつては、「地域発グローバル人材」の育成を目指し、地域・日本の歴史や文化に関する認識を深め、自分の考えを持った上で、世界中の異なる考え方を受け容れて共感し、新たな価値を創造できる人材の育成を目指す。その中核として「プレゼンテーション力」を掲げ、自分の地域・国の誇りをもって国際舞台で活躍できることを重視する。

学生の満足度を高めるため、教員の自主的な授業改善の取り組みを基本として、大学・短大全体の教育の質的改善への努力によって、「三つのポリシー」（入学者受け入れの方針・カリキュラムの方針・卒業認定の方針）に基づく内部質保証を進める。学生の「能動的学修」を重視し、「学生主体の大学」の進化として「学生生活向上委員会」を活性化し、学生の自主的な活動を重視し、学びの知を深める喜びとしての「“楽”習力」を培うことを重視する。

地域連携においては、地域に輝き、地域創生を地域と共に目指す大学として、新たに地域連携機能と学生支援機能を統合した「エクステンションセンター」を活性化することによって、全学あげて地域とのつながりを深めるよう、一層努力をする。

従来からの「就職に強い中国学園」などに加えて、女子バレーなど「スポーツにも強い中国学園」を目指し、名実共に「県下一輝く大学」を目指す。また、学科の発展的改組を含む魅力ある学園づくりをどのように展開していくか、特に学生充足率の低い学科について抜本的な検討を進め、改革案を早急に取りまとめて具体的に改革を進める。各学部・学科における特色づくりとその広報活動が以前にも増して強く推進しなければならない。近隣の同種の学科とどこがどのように違い、どのような学生をどのように教育し付加価値を付けて世に送り出すかを明確にした入試広報活動を、入試広報部と各学科が協働して進める。

こうした状況を踏まえ、今後取り組むべき重要課題として次の5点を挙げることができる。

- (1) 学部・学科の改組・改編による教育・研究の仕組みの改革
- (2) 教職員自身の意識改革と教育・研究の力量の向上を目指す方策
- (3) 入り口（入学者の確保）・内部（カリキュラム・教育の質）・出口（就職や進学）の有機的連関に基づく「学士力」の保証方策
- (4) 中国学園大学と中国短期大学の社会における知名度と名声を向上させる方策
- (5) 収支の均衡と財政の健全化

これらの課題は、相互に関連し合うものである。どの課題についても、今まで改善を図ってきているが、さらに学内での論議を進め、より実効の上がる具体的手段を講じなければならない。

このため平成29年度は次の事項に重点を置いて運営していく。

2. 沿革

- 1953（昭和28）年 学校法人平田洋裁学園設立認可、平田洋裁学園設置（岡山市船頭町12番地）
- 1962（昭和37）年 学校法人平田洋裁学園を学校法人平田学園に改称
中国女子短期大学設置（岡山市船頭町12番地）家政科設置
- 1963（昭和38）年 家政科第二部増設
- 1964（昭和39）年 保育科増設
- 1965（昭和40）年 中国女子短期大学を都窪郡吉備町（現岡山市）庭瀬83番地に移転
中国女子短期大学を中国短期大学に改称
英文科 音楽科 増設
- 1966（昭和41）年 平田洋裁学園を平田デザインスクールに改称
- 1968（昭和43）年 専攻科 音楽専攻設置
- 1977（昭和52）年 平田デザインスクールを学校法人平田学園から分離
学校法人事務所を岡山市庭瀬83番地に移転
- 1988（昭和63）年 幼児教育専攻科 英語英文専攻科 増設
- 1989（平成元）年 学校法人平田学園を学校法人中国短期大学に改称
- 1990（平成02）年 家政科廃止認可
- 1992（平成04）年 経営情報学科増設
- 1995（平成07）年 専攻科音楽専攻 学位授与機構認定
- 1999（平成11）年 人間栄養学科設置
- 2001（平成13）年 学校法人中国短期大学を学校法人中国学園に改称
- 2002（平成14）年 中国学園大学開学 現代生活学部人間栄養学科
- 2003（平成15）年 中国短期大学人間栄養学科 募集停止に伴い学科廃止
専攻科英語コミュニケーション専攻 募集停止に伴い廃止
- 2006（平成18）年 中国学園大学大学院開設 現代生活学研究科人間栄養学専攻
子ども学部子ども学科開設
- 2008（平成20）年 専攻科 幼児教育専攻 廃止
- 2010（平成22）年 音楽科募集停止届出
中国短期大学平成21年度第三者評価、適格と認められる（短期大学基準協会）
- 2011（平成23）年 中国学園大学大学院開設 子ども学研究科子ども学専攻
中国学園大学平成22年度第三者評価、適格と認められる（日本高等教育評価機構）
- 2012（平成24）年 音楽科廃止
- 2013（平成25）年 専攻科音楽専攻廃止
- 2015（平成27）年 国際教養学部国際教養学科開設
中国短期大学平成27年度第三者評価、適格と認められる（短期大学基準協会）
英語コミュニケーション学科廃止
- 2016（平成28）年 中国学園大学平成28年度第三者評価、適格と認められる（日本高等教育評価機構）

3. 設置学校等

学校法人中国学園 理事長 中 島 博
中国学園大学 所在地：岡山市北区庭瀬 83 番地 学 長：松 畑 熙 一
中国短期大学 所在地：岡山市北区庭瀬 83 番地 学 長：松 畑 熙 一

4. 役員及び教職員に関する情報

					大 学	短期大学	合 計
役 員	理 事	8 名	教 員	常 勤	58 名	27 名	85 名
	評議員	24 名		非常勤	38 名	27 名	65 名
	監 事	2 名	職 員	常 勤	35 名		35 名

5. 事業の概要

(1) 当該年度の主な事業の概要

I. 学部・学科の重点的取組

◎中国学園大学

【現代生活学部人間栄養学科】

1 管理栄養士合格者の増加を目指す

専門演習、総合演習、管理栄養士専門演習のなかで、国家試験対策を行い、また、国家試験対策講座を実施して管理栄養士国家試験合格者の増加を目指す。

- ① 管理栄養士演習 I、II において、3 年次生を対象に国家試験に求められる基礎的内容について復習授業を実施した。
- ② 管理栄養士専門演習 I、II において、4 年次生を対象に国家試験に求められる基本的内容の復習及び実践的問題演習等を実施し、理解度及び実践応用力の向上を図った。
- ③ 総合演習において、グループ学修による知識と理解度を深めるとともに、模擬試験を定期的に実施し、学修到達度を測り、学生の向上心を刺激し高めた。
- ④ 国家試験対策として、外部講師による対策授業も実施した。
- ⑤ 平成 30 年 3 月 4 日に実施された管理栄養士国家試験において、42 名（新卒者）の合格者を得た。

2 管理栄養士や栄養士に対する職業意識を高める

ファーストイヤーセミナー、栄養セミナーにより、栄養学の理解を深めると共に、それを実践する管理栄養士や栄養士に対する職業意識を高める。

- ① ファーストイヤーセミナーにおいて、管理栄養士として活躍している卒業生を招聘し、管理栄養士の業務内容についての講話を拝聴した。

- ② 栄養セミナーⅠにおいて、管理栄養士や栄養士の業務について、グループによる調べ学修を実施した。発表会を開催し、調べた結果を発表する中で、管理栄養士や栄養士の職場を理解した。
- ③ 栄養セミナーⅡAにおいて、管理栄養士として活躍している卒業生を招聘し、管理栄養士や栄養士の業務内容について理解度を高めた。
- ④ 栄養セミナーⅡBにおいて、各職場で活躍している管理栄養士8名を招聘し、職業意識を高め、現場業務への理解を深めた。

3 家庭と連携した学習支援の強化

学生、保護者が大学での学修や生活について理解を深めることを目指し、就職の支援を図る。

- ① 2年次生を対象に、学生、保護者及び担任による三者面談を実施した。
- ② 3年次生を対象に、学生及び保護者に対し臨地実習、就職活動、卒業要件、国家試験に関する説明会（平成29年9月2日）を実施した。学長より建学の精神について説明を頂くとともに、就職支援部部長から就職に関する最新情報を説明頂いた。その他の臨地実習、卒業要件及び国家試験に関する内容については、本学教員が説明した。併せて、希望者には三者面談を実施し、相互理解を高めた。

4 リメディアル教育の充実

基礎学力の向上を目指す。

- ① 個人の学力に合わせた生物、化学などの理科系科目の復習をe-ラーニングシステムを活用し、基礎学力の向上を図った。

【子ども学部子ども学科】

1 平成31年度に向けてのカリキュラム改訂実施

- ① 保育士・幼稚園教諭・小学校教諭養成における教育充実を図り、再課程認定に対応。

2 保幼コース・小学校コース採用試験対策を強化

- ① 教志会を中心とした勉強会・採用試験支援対策を行った。
 夏季セミナー、春季セミナー（1～3年生対象）
 一次試験・二次試験対策セミナー（4年生対象）
 実技・面接個人対応（4年生対象）

3 子ども学科コモンズの利用拡大

- ① M501室を、授業における「思考を活性化する」学習形態（アクティブ・ラーニング）とし、学生の主体的学習習慣の涵養に向けて授業内外で働きかけを工夫する。また、授業外では教志会を中心とした自習室としての機能を持たせるようにした。

4 中国学園大学子ども・あごら

- ① あそびのタネ展「小学生といちごケーキをつくろう」3月28日（水）
- ② 「おやこ広場」（月2回）開催。（本年度5月から開始）

5 子ども学部子ども学科シンポジウム 2月18日（日）「えほんの時間 vol.2」実施。

- ① シンポジウムをとおり、奥深い可能性をもつ「絵本」について、その「メディア性」をテーマとして理解を深める機会を参加者に提供することを目的とする。

6 募集広報の戦略の再検討と募集計画。

- ① 幼稚園実習訪問（10月）に合わせ、福山地区を重点的に高校訪問。

- ② 施設実習（2月）に合わせ、岡山県及び福山地区の高校訪問。
- ③ 定員増に向けての広報活動検討

7 子ども学科保護者会実施

- ① 「子ども学科保護者懇談会」を10月14日（学園祭初日）に実施。
就職支援体制、実習等が話題の中心となる。希望者には個別面談を実施した。

8 入学前オリエンテーション

- ① 2月18日（日）、3月26日（月）新1年生対象入学前オリエンテーション
内容：課題図書・問題集・ピアノ実技指導

【国際教養学部国際教養学科】

1 国際教養学部のブランド確立のための事業

- ① 台湾の姉妹校である高苑科技大学から、5名のセメスター留学生（前期2名、後期に3名）の受け入れを行い、また9月に一週間の台湾研修に9名の学生を派遣するなど、「国際“相互”交流の中国学園」をアピールする実績を作ることができた。
- ② 第1回学術シンポジウム（演題：「日本語を守る、日本語を広める」）を11月4日に開催し、完成年度後に設置する「日本探求コース」の中で取り組む「日本語教育」について考える機会を持つことができた。参加した学生達は、基調講演を行われた津田氏、及びシンポジウムでのパネリストの意見に聴き入った。新年度に入って、「日本語教師」を目指したいという学生が増加しているが、動機として「シンポジウムに参加して、刺激を受けた」という者が多かったことは喜ばしいことである。
- ③ 今年で3回目となる「高校生のためのプレゼンテーション・コンテスト」が12月16日に実施された。コンテストへの総参加人数は56人で、そのうち11名が本戦でプレゼンテーションを行った。今回もこれまで同様、優れた内容のプレゼンテーションが続出し、審査員を大いに悩ませたようであるが、日本語と英語の両部門において金光学園高等学校の発表者にそれぞれ最優秀賞が授与された。

2 学生の英語力育成支援

- ① クラウド対応型英語検定・TOEIC対策教材を導入し、学生のサポートを行った。29年度の結果として、教材利用者58名のうち10名が新たに英検2級に合格し、3名がTOEIC550点以上のスコアを取得することができた。

3 目玉授業の支援

- ① 一年次に学生のキャリア意識を向上させる目的で開講する「トップリーダー講義（担当：佐々木准教授）」と学部が目指す「地域発グローバル人材」に欠かせない郷土に関する知識を学ぶ「吉備学（担当：松畑学長）」。29年度は以下の講師陣で実施した。

「トップリーダー講義」平成29年度講師陣（敬称略）

10月11日 日本貿易振興機構（JETRO） 岡山貿易情報センター 所長 高宮 純一

10月18日 ひるぜんワイン 代表取締役 植木 啓二

10月25日 ウェーブハウス 代表取締役社長 市川 周治

11月01日 NPO法人タブララサ 代表 利根 弥生

11月08日（有）くま 代表取締役 辻 信行

11月15日 両備ホールディングス（株） 代表取締役社長 松田 久

11月22日 トップリーダーの資質

12月06日（株）トミヤコーポレーション 代表取締役会長 古市 大蔵

12月13日 山陽放送（株） 代表取締役社長 桑田 茂

12月20日 ナカシマプロペラ（株） 代表取締役社長 中島 基善

- 1月17日 高苑科技大学 共同授業 (海外リーダーの動向)
- 1月24日 タルマーリー オーナー 渡邊 格
- 「吉備学」平成29年度講師陣(敬称略)
- 10月26日 歴史課題認識を持つ(1):津田永忠の業績を中心にして
両備ホールディングス株式会社 代表取締役会長 小嶋 光信
- 11月09日 「私の地域課題認識」のまとめ
山村エンタープライズ 代表 藤井裕也
- 11月30日 閑谷学校と「論語」の学び(2):素読などを通しての具体的学び
岡山県青少年教育センター 閑谷学校 校長 國友 道一
- 12月21日 「吉備地域からの「地域発グローバル(ローバル)人」のあり方を検討する」
備前焼作家 平川 忠

4 短期・長期留学の支援

- ① フィリピン・セブ島での「オリエンテーション海外研修」は、今年度も5月の連休明けに実施し、新入生の勉学への意識を高める成果を上げている。
- ② 2年次のセメスター留学については、2名の派遣留学生(奨学生)が米国とオーストラリアにて、1名が一般留学生(自費留学生)としてカナダで研鑽を積んで帰国した。それぞれ、実践的な英語コミュニケーション力を増強させたことに加え、渡航前よりもさらに積極性が身についたという印象を受けたことから、所定の成果を収めたものと思われる。

5 学部広報の充実

- ① Facebookを中心に、各ゼミの様子や学部の催し物に関する告知または事後報告等を行った。

◎中国短期大学

【総合生活学科】

1 2コース制の特色を活かした効果的な教育の推進

- ① 平成27年度より導入された2コース制(医療事務コース、生活創造コース)の新カリキュラムは順調に実施された。医療事務コースは選抜コースの位置づけで定員制とし、コース必修科目、コース必修資格取得を明確化したが、医療事務コース所属学生の目的意識がより明確化し、学習意欲向上へ繋がり、就職も従来採用されなかった医療機関へも内定実績が得られた。対外的認知度が向上してきていると推定している。
- ② 基礎→応用→演習・実習→資格取得・特別研究発表という順次性を重視したカリキュラム編成を進め、学生に判り易い学習の流れを提供し、満足度向上へ繋げるべく進めた。従って、従来1年生前期カリキュラムで実施していた「介護職員初任者研修」を2年生前期へ開講時期を変更したため、今年度修了者は無しとなった。

2 学科独自の表彰制度の検討

- ① 学生の意欲向上・満足度向上を目的として、学科独自の表彰制度を設け、29年度卒業生に実施した。卒業時に「最多単位取得者賞」1名、「最多資格取得者賞」3名に賞状を手交した。

3 介護福祉専攻科の将来構想検討

- ① 介護福祉専攻科の将来構想を将来構想検討委員会を設置して検討を進め、平成32年4月スタート目標で、総合生活学科へ設置することを前提に具体的検討を進める事となった。

4 入学前教育と初年度教育の相乗効果

- ① 入学前教育の内容は、生活関連9分野の新聞記事を読んで、コメントをまとめるレポート課題を実施しているが、昨年度から評価基準を判り易くするため、ルービック評価方式による採点方法を採用し、入学前までに添削、採点をした結果を本人へ通知した。入学後授業で、出題の目的、採点結果の公表、優秀者の表彰を行い、初年度教育へ繋げた。

5 高等学校との交流・募集広報活動の推進

- ① 6月上旬入試広報部と連携を取りながら、昨年訪問実績のある過去3年間で学生入学数の多い高校を中心に、学科の教員で学生の近況報告、学科案内などを兼ねた高校訪問26校を実施した。
- ② オープンキャンパスでは、模擬授業に力を入れ、総合生活学科の特徴をより知ってもらうべく様々の模擬授業を準備し、学生が興味のある模擬授業を自由に選択できる方式を新しく導入した。結果として、昨年度より参加者増となり、効果があったと考えている。
- ③ 11月開催される岡山県高等学校家庭クラブ発表会、1月実施された高梁高校家庭科展へ参加した。

6 地域・卒業生との交流、連携

- ① 卒業生、在校生との交流の場として大学祭に「総生サロ」を開催してきたが、今年の学科行事として、10/14(土)「あいサロター研修会」を企画した。講師として岡山県保健福祉部中村様においでいただき「障害を知り、共に生きるバリアフリー社会のおもいやり」の演題で講演をしていただいた。あいサロター研修会は、一般、学生、教員等51名の参加者が有り、参加者へ認定のバッジをお渡しした。総生サロは、約20名のOG、OBの参加者があった。

【保育学科】

1 学生への実践的教育の実施

- ① 実践的指導力を養う魅力ある授業の構築
- ・乳幼児一人ひとりの発達に合わせた指導のできる実践的指導力を身につけた保育者を養成するため、魅力ある授業づくりに取り組んだ。具体的には、講義では、学修課題の提示、教育機器を活用した説明、グループ討議、発表などの活動を取り入れ、学生が主体的・対話的で深い学びができるようにした。演習、実習では、近隣の保育所、幼稚園と連携して保育施設での模擬保育の実施、保育施設での乳幼児との交流、演習前の事前・事後指導の充実を図ることで、学びの総合化を図った。
 - ・講義や演習において、振り返りシートやワークシートを活用し、学生への個別指導、個別支援を実施した。
 - ・教科によっては、NIE教育を取り入れ、読む力、考える力、書く力の強化を図った。
- ② 保育所実習・幼稚園教育実習の前後を利用した特別講義の充実
- ・助産師・思春期相談員を講師に招いて、4月と6月に2年生を対象に「子どもに対する性の健康教育のあり方」をテーマに講話をしていただき、保育所・幼稚園で遭遇する事柄への適切な対応方法について理解を深めた。
 - ・現場の保育士3名を講師に招いて、5月に2年生を対象に保育現場の実態や実習生に望むこと等について講話をしていただき、保育所実習に対する心構えと意欲の向上を図った。
 - ・幼稚園教育実習の事前指導として、9月に保育学科2年生を対象に、吉備東幼稚園長など現場の教員3名を講師に招いて、特別支援教育の実情と教師としての心構え等について講話をしていただき、幼稚園教育実習に対する学びの基礎を培った。
 - ・幼稚園教育実習の事前指導として、10月に現場の教員3名を講師に招いて、教育現場の実態と体験談、幼稚園教育実習までに準備しておくこと等について講話をしていただき、幼稚園教育実習に対する心構えと意欲の向上を図った。
 - ・幼稚園教育実習後の11月～12月の期間において、岡山市・倉敷市内の公立幼稚園で実習をした学生に対して各園の園長から2時間の事後指導を行っていただき、幼稚園教育

実習のまとめと振り返りを行った。

- ・ 保育所実習・幼稚園教育実習を終えた学生に対して、実習で学んだ知識等を深めることを目的に12月に現場の教員2名を講師に招いて、保育・教育現場の実際について講話をしていただき、学びの総合化を図った。

③ 学習環境の充実

- ・ ピアノの技術を身につけるために、ピアノの授業にグレード制を取り入れて実施した。同レベルでの指導を行うことで指導効果が認められた。また、進度の遅い学生に対しては夏休みに集中的にレッスンをを行い学修支援に努めた。
- ・ 学生が自由にピアノ練習ができるように練習室の使用時間を設定した。

2 保育発表の機会

- ・ 2月に福山市民会館と本学体育館において、オペレッタ、ダンス、ハンドベル、絵本シアター、創作劇など、子どもから大人まで楽しめる演目構成で保育学科発表会を開催した。演目の内容はすべて学生主体で創り上げることで、2年間の学びの総合化を図り、達成感を味わうことができた。
- ・ 12月に中国四国保育学生研究大会（会場：四国学院大学）において、「食具操作の発達過程と援助方法」について研究成果を発表した。

3 地域連携・貢献の推進

- ・ 地域社会との良好な関係づくりは、保育学科の存在意義を地域に発信する重要な機会であると捉え、積極的に取り組んだ。
- ・ 倉敷私市立幼稚園協会「キンダーフェスティバル」に協賛出演した。（5月26日）
- ・ 吉備公民館との共同開催「この指と一まれ」を、子育て支援演習の授業の一環として実施した。
（6月29日、7月27日、11月16日、12月21日、1月25日）
- ・ 総社市との連携事業として、保育所・幼稚園から小学校への円滑な接続のためのアプローチカリキュラムと、小学校1年生が小学校生活を円滑にスタートするためのスタートカリキュラムの作成等について、本学科の教員が継続して指導助言を実施した。

4 キャリア教育の推進

① ボランティア活動への参加

- ・ 人形劇や絵本の読み聞かせ等のボランティア活動に学生が自主的に参加することで、地域社会の中で自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現していくキャリア発達を促すとともに、実践的指導力の向上を図った。
- ・ あっぷるのおもちゃ箱（5月27日RSKハウジングプラザ、10月29日横井小学校、11月11日・12日イオンモール岡山、12月17日岡山ふれあいセンター、2月13日吉備東・西幼稚園、2月14日こうほく学園子育て支援センター）
- ・ ちゅうたんおもちゃ公園（2月4日プレーパーク事前研修・岡山市こどもの森「節分祭」参加、3月4日 本学）
- ・ ちちとコクラブ（6月25日、12月17日 本学）
- ・ 吉備綾南まちかど博物館（11月5日）
- ・ 人権フェスティバル岡山（12月3日 岡山ドーム）

② エクステンションセンター（学生支援部門）との連携

- ・ 問題予約・受け取り、資料の活用、進路相談、書類添削、作文・小論文の指導、試験対策、教職・就職に関する情報等において、多くの学生が学生支援部門を活用し、自分の生き方についての考えを深め、進路選択や進路決定に役立てた。

5 学生募集のための広報活動の強化

- ・ 高校内ガイダンスに積極的に参加し、高校生に対して保育学科の教育方針、カリキュラ

ム、取得資格、就職等について説明するとともに、模擬授業等を実施した。

- ・入試広報課と連携し、教員が6ブロック60校の重点の高校を訪問し、進路担当者に面会して学生募集に努めた。(139名の受験者を得た。)

6 卒業生に対するサポートの強化

- ・保育学科卒業生が就職して悩んだり、困ったりしたことなどを教員で支援する体制づくりに努めた。
- ・前年度の卒業生を対象に6月4日に「ホームカミングデイ」を実施し、10月14日～15日の大学祭期間中に卒業生全員を対象に「しゃべり場」を開催するとともに、15日にはリカレント研修会を実施した。大勢の卒業生が参加して教員と卒業生及び卒業生同士が情報交換を行ったり、卒業生が学びを広げたりすることができた。

7 介護福祉専攻への学生募集活動の強化

- ・保育士の資格をベースにより質の高い魅力のある授業・実習を実施し、介護福祉士の国家試験の受験資格を取得し、国家試験に合格することを目指している。(H29年度5名全員合格)
- ・保育学科2年生を対象に介護福祉専攻の学修内容等について紹介するガイダンスを7回実施した。また、保育学科1年生には専攻科介護福祉専攻発表会に参加し、介護福祉についての見聞を広める機会をもった。
- ・教員が高校、専門学校、施設訪問等を行い、介護福祉専攻について進路担当の教員等に説明を行って学生募集に努めた。(7名の受験者を得た。)

【情報ビジネス学科】

1 フィールド&ユニット制の導入

平成29年度から、さまざまなニーズの学生たちに、幅広く専門的な学習を効率的に行うために、フィールド&ユニット制を導入した。自分の目指すフィールドを中心に、全てのフィールドからユニット単位で授業を履修することにより、2年間で効率的に学習することを可能にするシステムであるが、効果的に機能させるためには、履修指導をきめ細かく行う必要がある。そこで、新入生オリエンテーションでは、例年の約2倍の時間を割いて、履修指導をおこなった。学生たちにフィールドを意識させながらユニット単位での履修指導を行うことにより、自分の興味に沿った授業を中心に、バランスよく効果的な履修を行うことができた。また、新規開講科目である「対人関係の心理学」では、61名中57名が履修した。情報ビジネス系の学科における心理学系科目の開講は学科の特徴の一つでもあるため、今年度実施される「ビジネスと産業の心理学」「心の健康と心理学」の履修状況を見て、ニーズがあれば今後さらに充実させたいと考えている。

2 実践学修の強化

実践学修として、テレビ・ラジオの番組「キニナル箱！」の制作、地域イベント（倉敷ジャズストリート、里庄町産業文化祭）の運営・ボランティアスタッフなどを行った。実践学修の成果の一つとして、番組制作のスタッフとして実践学修に取り組んでいた学生（研究生）が、これまで短大卒の求人が無かった放送局（倉敷ケーブルテレビ）に就職した。また、広告代理店の映像制作部署のクリエイターとして就職した学生もおり、実践学修により高度なスキルを持った学生を育成できつつある。

また、平成30年4月からスタートしたテレビ番組「PRIDE」（TSCテレビせとうち）にレギュラーとして、研究生1名が出演することが決定した。これらは全て実践学修の成果の一つであり、実践的なスキルを持った学生を育成すべく実践学修の取り組みは今後もさらに継続して強化したいと考えている。

これら実践学修の影響もあり、平成30年度には11名が研究生を希望した。

3 学科の特色を活かしたイベントの実施と募集活動の強化

- ・ 広報活動の一環として、学科独自のイベントであるコスプレイベントを2回開催し、西日本を中心に全国から延べ248名が参加した。この取り組みはソーシャルネットワークなどで広まり、認知度は年々高くなっている。
また、倉敷ジャズストリートおよび里庄町産業文化祭に延べ28名の学生が参加した。産業文化祭では、数名の学生がステージ上で、約1000人の来客者に対して大学のPRを行った。
- ・ 募集活動のために、学科独自のちらしを制作した。ちらしは、高校に配布すると同時にオープンキャンパスに来た学生やイベントの来客者などにも配布した。
- ・ 約2分間の学科イメージCMを制作し、YouTubeで公開した。公開から約3か月で2万再生を超え、PR効果は大きかったと判断している。

Ⅱ. 29年度重点事業の取り組み

1 大学及び短期大学の定員確保と学科の発展的改組の推進

大学については、平成29年4月に将来構想検討委員会を立ち上げ、学生確保や入学定員の見直しについて検討し、10月に国際教養学部国際教養学科のコース制の導入や入学定員の削減等を内容とする答申を受けた。この答申を受け、学内にプロジェクト会議を設置し、具体的な改編に向けての協議を行い、国際教養学部のカリキュラムを見直すとともに入学定員の30名の削減を行うことに併せて子ども学部の入学定員を30名増加することで手続きを進めている。

短期大学については、平成28年度に将来構想検討委員会から出された各学科の特徴的な学習内容、カリキュラム、教育方法等を見直す報告書に基づき改善を進めている。又、専攻科の将来構想に併せて総合生活学科に新たなコースの設置や定員の見直しなどについて検討を行っている。

2 施設設備の改修推進

本学校舎及び体育館の施設は平成26年度までで耐震対策工事、大規模改修工事を行い教育環境の整備は完了しており、本年度は公共下水切替工事や空調機修理、給水配管工事、照明器具改修工事などを行った。

また、岡山市から認可保育所運営事業予定者に決定されたことを受け、認定こども園の平成31年4月の開園に向け、中国学園撫川グラウンドに施設整備を行うための設計に着手した。

3 学生確保の充実強化

入試広報部を中心とした学生募集の取り組みは一定の成果は上げつつあると考えている。平成30年度入試では、保育・教育系で定員に近いかそれを上回る入学者があったものの、それ以外の現代生活学部や国際教養学部、短期大学の総合生活学科、情報ビジネス学科では入学定員の確保が厳しい状況であった。このため、平成31年度入試の学生募集に向けて、各学科と連携を取りながら新たな戦略、戦術を練り直すことは喫緊の課題であると考えている。学生確保のためには教育内容の充実が基本であることは言うまでもないが、31年度入試においては、より高校生目線・保護者目線で広報を行い、全教職員が一体となって募集体制を強化し、学生確保に努めていく所存である。

① 認知度アップと出願数の増加に繋がる取り組みの強化

- ・TV放映された映像、部活動のプロモーションビデオ、大阪で開催された「夢ナビライブ」に参加した国際教養学部の教授の講義風景の動画を本学のホームページに掲載し、バナーを貼って本学の認知と理解度のアップを図った。
- ・オープンキャンパスの告知は、高等学校へチラシの配布、本学の接触者に対してDMの発送、「LINE@」での呼びかけ、山陽新聞への広告掲載などの広報を行った。1回～5回までの高校生の参加人数は1,705人で、昨年より50人増加した。オープンキャンパスに参加した高校生がAO入試、指定校・公募推薦入試に出願した率は51.0%で昨年より2.8%アップした。オープンキャンパスの内容を工夫して、60%以上の高校生が出願してもらえるようなイベントにしていきたい。

② 本学の理解のために、高校教員・保護者に対する積極的な働きかけの実施

- ・高等学校の進路指導計画を勘案し、高校教員目線での高校訪問を行った。その際、本学への接触者の履歴をデータベースで管理し、「エリア別」「学校別」などに分類し、様々な角度から分析を行い効果的な募集を行った。
- ・オープンキャンパスの充実・工夫を行う中で、参加者が増加している保護者に対して保護者のニーズに応えられる保護者対象説明会（Web出願の方法と就職支援体制）を7月23日（日）のオープンキャンパス開催時に実施した。
- ・5月24日と29日に本学で5月31日に福山市で入試説明会を開催した。参加高校

数は26校、18校、20校の計64校であった。主な内容は平成29年度入試結果と平成30年度入試についての説明で、今年度から新たに在学生（6学科）による本学の紹介スピーチを行い、好評であった。

- ③ 効率的な情報媒体の作成と各種メディアの効果的な活用
 - ・本学ホームページがスマートフォンへの自動変換により、スマートフォンからも資料請求が可能となり4989件の資料請求があった。
 - ・テレビによる本学紹介番組の放映やCMまた新聞広告などを通して本学広報の強化を図った。
- ④ マッチングナビ内の高等学校別カルテを活用し、効率的な高校訪問により学生募集の強化を図る
 - ・高等学校訪問時に、訪問した高校の生徒の情報などが瞬時に確認でき、高校教員と個々の生徒について情報交換を行い学生募集に繋がった。
- ⑤ スポーツ推薦入学者の確保
 - ・本学の女子バレーボール部・女子ソフトボール部へ競技力の高い学生を確保するため、中・四国地区だけでなく九州・近畿・関東まで募集範囲を拡大し、スポーツ推薦入学者の増員を図り8名（バレーボール部4名、ソフトボール4名）が入学した。

4 学生支援の充実

① 就職支援の充実強化

平成29年度の卒業生の就職率は98.8%である。内訳は、大学97.8%、短期大学99.5%、専攻科100%と「就職に強い中国学園」を維持した。

企業の広報活動開始3月、選考開始6月となっているが、選考開始6月は多くの企業で有名無実である。しかし、(株)中国銀行、おかやま信用金庫、オハヨー乳業(株)、(株)カイトック、(株)廣榮堂、(財)津山中央病院など県下の優良企業からも内定をいただき、内容的にも昨年度を超えるものとなった。また、小学校教員採用試験で5人、公立幼稚園・保育所採用試験に9人が合格した。

インターンシップの実績(夏期分)は昨年より大きく伸びて、37人が44事業所で実施することができた。また冬・春期については35人から実施の報告があった。

就職支援を行う上での家庭の協力は大きく、後援会総会(保護者会)での就職支援課行事は毎年好評である。また「就職支援センターだより」を12月に発行することができた。

「先輩との就活カフェ」は、後輩から希望職種を募ってのミニ座談会が好評であった。

おかやま新卒応援ハローワークの協力を得ての「出張ハローワーク」は、今年度も、11月～1月の10日間、毎週木曜日午後実施して延べ62人の学生が就職相談に訪れた。

2月に「業界研究セミナー」において14社の企業をお招きして実施した。また、3月には2日間日程で30社の企業の協力をいただき「学内合同説明会」を実施することができた。

卒業までに内定を受けられなかった学生、卒業後に不本意にも離職した学生の就職をサポートするための対策の一つとして、継続して「つながりカード」を配布している。

さらに次のことを継続して実施する。

- ・キャリア教育、インターンシップの推進や就職ガイダンス、DVD視聴学習や面接練習等の充実
- ・就職支援センター職員による新規企業開拓および就職企業先等への挨拶訪問の実施
- ・インターネットによる求人受付、地元企業等を含む他団体との連携強化等の継続実施

平成 29 年度卒業生就職者数及び卒業後の進路(主な就職先等)

(平成 30 年 5 月 1 日現在)

学部・学科名		平成 28 年 度						備 考
		卒 業 数	就職希 望者数	就 職 数	就 職 決定率	進 学	進 路 決 定 率 (就 職 + 進 学) / 卒 業 者 数	
大 学 院	現代生活学研究科	2	2	2	100.0		100.0	
	子ども学研究科	2	1			1	50.0	未 定 1
	小 計	4	3	2	66.7	1	75.0	
大 学	人間栄養学科	63	60	58	96.7		92.1	家事他 3 未 定 2
	子ども学科	82	76	76	100.0	2	95.1	家事他 4
	小 計	145	136	134	98.5	2	93.8	
中 計		149	139	136	97.8	3	93.3	
短 期 大 学	総合生活学科	55	50	50	100.0	1	92.7	家事他 4
	保育学科	135	118	118	100.0	14	97.8	家事他 3
	情報ビジネス学科	48	30	29	96.7	12	85.4	家事他 6 未 定 1
	小 計	238	198	197	99.5	27	94.1	
専攻科 介護福祉専攻		5	5	5	100.0		100.0	
中 計		243	203	202	99.5	27	94.2	
合 計		392	342	338	98.8	30	93.9	家事他 20 未 定 4

<大学（大学院）主な進路先>

◇現代生活学研究科：就職：（医）村上脳神経外科内科、海上自衛隊

◇子ども学研究科：進学：中国学園大学大学院研究生

◇人間栄養学科：就職：（株）アプレヒまわり<4>、（株）廣榮堂、（社福）明和会特別養護老人ホームあづき、竹久夢二本舗敷島堂（株）<2>、（株）エブリイ・ミホールディングス、（株）ホトマツク、ネットヨク岡山、小野（株）、レナド（株）、（株）重光、大黒天物産（株）、旭食品（株）、（株）佐野組、（株）ドンク、（株）ザグザグ、（医）遠藤歯科クリニック、（社福）ちとせ交友会油面ちとせ保育園、（株）沖縄総合給食、（株）リコモインタープライズ、（有）三福林、（一財）津山慈風会津山中央病院、（株）さくら祭典、（株）トラックストア、（社福）まこと会特養老人ホームきび庭瀬<2>、日本総合製美（株）、（有）アトリエカル、山茂、セントラルズ、（医）社団五聖会児島聖康病院、きのこグループ在宅複合施設総社市山手福祉センター、（社医）正峰会神戸ゆうこう病院、（社福）中野社会福祉会天城保育園<2>、（社福）笹ヶ瀬福祉会宝島保育園<2> 他

◇子ども学科：進学：中国学園大学大学院子ども学研究科 留学：語学学校 inlingua（パソカーバー）
就職：（株）中国銀行、（株）白十字、おかやま信用金庫、（株）ウイグループ、（社福）健老会特別養護老人ホーム健老園、サキクリイト（株）、（株）更紗ホールディングス、（社福）四ツ葉会杉の子保育園、（株）山陽マルカ、翠宝商事（株）、（社福）つくし会道上保育園、（社福）瑠璃会弘江保育園、津山農業協同組合、（社福）向陽会西田保育園<2>、赤磐市立黒本保育園、三原市立本郷ひまわり保育所、ネットヨク山陽（株）、真庭市立米来小学校教諭、赤磐市立山陽小学校教諭、広島県小学校教諭<2>、（独行）国立青少年教育振興機構<国立室戸青少年自然の家>、東京都小学校教諭、甲良町立甲良東保育センター、（学）尾形学園しらゆり幼稚園、（株）日本保育サービス、（社福）「ゼノ」少年牧場<2>、（社福）岡山こども協会あすなろ保育園、（社福）クムレ小ざくら夜間保育園、（社福）聖徳会まつば保育所、（社福）中野社会福祉協会わかみや保育園、（株）アスコ、岡山市立東畦保育園、美作市立大原保育園、（学）河本学園白ゆり幼稚園、（社福）中野福祉協会天城子どもの家、（社福）宝和会すまいる保育園、丸亀市立土居保育所、吉備中央町上竹荘保育園 他

<短期大学主な進路先>

◇総合生活学科：留学：ワーキングホリデー-語学学校 RCIS（カナダ）

就職：（株）きもの工芸西陣、（株）アプレヒまわり、（株）岡山マツダ、（一財）ホテイヤレピスト協会、（株）岡山スポーツ会館、（株）トキコホレーション、ラヴィール岡山衣裳部<有リ Ansatz>、（株）山陽マルカ<3>、（株）インターネットインフォニティ、（株）ホテル八千代、福山市農業協同組合、（医）創和会しげい病院、山陽工業（株）、ネットヨク山陽（株）、（公財）足立美術館、旭食品（株）、（株）ホテルグランドパレス岡山、（一財）カンテスセンター西部検査所、（公財）大原記念倉敷中央医療機構倉敷中央病院、（株）シマダオール、（医）社団鈴木眼科医院、高屋クリニック、（医）社団仁正会おかの眼科、コスメ化粧品販売（株）、（医）社団岡本病院、（株）ネクス、（株）東洋工務店、清野内科医院、P.O.Pカンパニー（株）、日本通運（株）岡山支店、（医）三樹会梶木病院<2>、吉正整形外科、岡山西農業協同組合、ライクスタッフィング（株）中国支社、（株）有隣、（医）水清会水島第一病院

◇保育学科：進学：中国学園大学子ども学部3年次編入<6>、中国短期大学専攻科介護福祉専攻<7>、ヒューマンアカデミー岡山校

就職：ネットヨク岡山（株）、（社福）いずみ会ひよこ保育園、すばる保育園、（社福）みたけ会つばくろ保育園、（社福）岡北福祉会認定こども園岡北学園、ちとせ交友会カナダ保育園、ちとせ交友会泊江ちとせ保育園、（社福）檸檬会レイメント大藪保育園、（社福）光昇会たま保育園、（学）かいけ幼稚園かいけ心正こども園、（株）はっけん、（社福）瑠璃会弘恵保育園、（社福）瑠璃会弘江保育園、（社福）向陽会沙美保育園、（NP0）玉野つつじねっと、（社福）天授福祉会ゆりかご保育園、（社福）ねむの木福祉会あおぞら保育園<2>、（宗）實相寺明浄保育園、（社福）育正福祉会大津野こども園、（学）のぞみ学園天使幼稚園、（社福）双葉会第四ひかり保育園、（社福）「ゼノ」少年牧場、（学）鯉城学園福山りじょう幼稚園、（社福）白鳩福祉会白鳩保育園、リョービ保育園<3>、（学）福山暁の星学園福山暁の星幼稚園、（社

福)虹福祉会富士こども園、(学)尾形学園しらゆり幼稚園、(社福)岡北福祉会柿の木保育園、(社福)まるいち会戸手南保育園、(社福)稔福祉会片島保育園、(学)誠信学園誠信幼稚園<2>、(社福)笹ヶ瀬福祉会宝島保育園、(社福)光耀福祉会かやのみ保育園、(社福)地藏院福祉会こざくら保育園、(社福)東光会大福保育園、(社福)和光園和光保育園<2>、(社福)順正福祉会順正保育園、(社福)八幡福祉会八幡保育園、(社福)たから会たから保育園、(学)晴心学園認定こども園晴心幼稚園、(社福)三晃愛児会桃太郎保育園、(社福)岡山愛育会みかど貴ッズ保育園、(社福)岡山愛育会みのりの木保育園<2>、(社福)昌和福祉会御幸保育所<2> 他

◇情報ビジネス学科 進学：中国学園大学子ども学部、広島県東部美容専門学校美容科、京都造形芸術大学芸術学部芸術教養学科、中国短期大学情報ビジネス学科研究生<9>

就職：笠岡信用組合、(株)ヘルシーホーム、(株)岡山マツダ、おかやま信用金庫、カイトック(株)、田坂鋼業(株)、(株)後楽不動産、岡山トヨペット(株)、(株)コパックス、(株)エコライフジャパン、(株)カートップ、(株)インベーションゲートウェイ、日本通運(株)岡山支店、(株)岡輝印刷、(株)ハローズ、(株)ソラスト、(株)マルマン、(株)セイキ、国際航空旅客サービス(株)、西日本電子計算機(株)、(株)アイウィルワズ、(株)フリーダム、(社福)秋桜会 他

◇専攻科介護福祉専攻 就職：(社福)松園福祉会特養老人ホームあすなろ園、(社福)敬友会グループホームひまわり、(社福)明正会特養老人ホームあずみ<2>、(社福)鷲山会倉敷シルバーセンター

②エクステンションセンター（学生支援部門）の支援活動

(1) 学習支援

◆保育職 学内模擬テスト

5月10日（水）4.5限目 教養試験 5月11日（木）5限目 専門試験
（ただし、保育学科Cクラスのみ 専門試験を5月8日（月）5限目に実施）
参加人数：46名（子ども学科15名 保育学科31名）

◆教職教養試験対策講座

①平成29年5月9日～5月26日 月曜日・火曜日・木曜日・金曜日 5限目 講師：東京アカデミー

参加人数：21名（子ども学科14名 人間栄養学科7名）

②平成30年3月13日（火）～3月16日（金）3, 4限目 講師：東京リーガルマインド

参加人数：34名（子ども学科17名 人間栄養学科15名 国際教養学科1名 卒業生1名）

◆一般教養試験対策講座

6月19日～7月10日 月曜日 4, 5限目 講師：東京アカデミー

参加人数：22名（子ども学科10名 人間栄養学科1名 国際教養学科1名
保育学科6名 総合生活学科1名 情報ビジネス学科1名）

◆岡山県（市）教員採用試験説明会

4月26日（水）3限目 岡山県（市）教育委員会事務局職員

参加人数：17名（子ども学科10名 人間栄養学科7名）

◆岡山県（市）講師・栄養職員（臨時）登録説明会

10月26日（水）4, 5限目 岡山県（市）教育委員会事務局職員

参加人数：19名（子ども学科15名 人間栄養学科4名）

◆採用試験対策

随時、個別に適宜支援

◆就職支援部との連携

・キャリアガイダンス「留学生就職セミナー」

平成29年6月28日（水）18：10～19：40 講師：森興産株式会社 森隼人氏

参加人数：8名（1年生 人間栄養学科1名 国際教養学科2名 情報ビジネス学科5名）

平成30年1月17日（水）16：30～18：00 講師：岡山公共職業安定所 室井さかえ氏

参加人数：6名（1年生 情報ビジネス学科6名）

平成30年1月24日（水）16：30～18：00 講師：森興産株式会社 森隼人氏

参加人数：8名（1年生 国際教養学科2名 情報ビジネス学科6名）

◆基礎学力養成対策

6月3日（土）10：00～11：00 日本漢字能力検定準会場

参加人数：48名（人間栄養学科1年生対象）

(2) 国際交流支援

◆イングリッシュカフェの運営

◆スピードラーニングの聴講

4月17日（月）より1年間 月曜日～木曜日 8：50～9：10

参加人数：のべ253名

(3) 学園生活支援

◆ライフスタイル・サポート

学内行事参加へのサポート

保険、住居保障など留学生からの相談受付および担当部署への案内サポート

③ 学生生活及び学生支援に関わる施設整備の充実

・1日駐車場の発行を含めた学生駐車場の有効活用

現在、学生用に91台分学生駐車場を設けているが平成29年度許可台数は78台、臨時1

日駐車券の発行は 754 枚であった。

自家用車通学学生には交通安全講習会を義務づけている。

- ・ 学生による清掃活動や、JR 庭瀬駅からの通学路の安全と環境整備
 本学学生の約 81%が自宅から通学している現状から、新入生オリエンテーションにおいて、通学路における交通安全指導を行うとともに 4 月授業開始時から 3 日間、5 月にも 1 週間学生の交通委員と教員が街頭指導を行った。
- ・ 学生食堂の食事内容やメニューの改善
 学生食堂のメニューと売店の品揃えについて、月に 1 度の話し合いを設け改善に努めるよう心がけた。学生のニーズにあった充実したメニュー作りに努めたい。
 また、平成 29 年 10 月より後援会御協力により学生健康サポートを実施している。朝食を食べて来なかった、昼食も麺類だけで終わらせている学生達に食生活のバランスを考え、朝食 30 食、昼食がセット 140 食、無料で提供している。学生達にも好評であり食生活の改善にも役立っている。
- ・ 光風寮の設備・備品の更新や生活環境整備
 光風寮の設備・備品の更新や改修を進め、生活環境の改善・整備を推進した。平成 29 年度は 85 名の入寮生でスタートを切り、運営をしている。

④ 学生の経済面支援の充実周知徹底

本学独自の奨学制度では、平成 29 年度学業成績優秀者優待者 14 名、修学支援優待生 15 名が採用された。その他卒業生の子の入学優待制度に 15 名、兄弟姉妹在学生支援制度に 6 名、沖縄等遠隔地学生支援制度に 3 名が該当した。日本学生支援機構の奨学制度は平成 29 年 9 月 1 日現在、612 名で全体 53%に達している（平成 28 年度 52%）。日本政策金融公庫、本学提携の民間金融機関の教育ローンの紹介にも努め、個人相談にも積極的に対応した。

⑤ 学生相談体制及び健康管理対策の充実等

学生相談については、臨床心理士と連携を図り学生の修学支援に努めている。

障がいのある学生の支援については平成 29 年 4 月より大学・短大の関係部署があつまり検討会議で協議を重ね障がい学生修学支援規程原案をまとめた。

大学コンソーシアム岡山「障がい学生支援委員会」とも連携を密にし、今後一層の支援対策を整えていく必要がある。

健康管理については、4 月に定期健康診断を実施し、結果に基づいて学生への健康教育に努める。麻疹・風疹抗体検査等も実施した。また、全学科を対象に性教育の講座、防犯セミナー、依存セミナーなど幅広い学生支援セミナーを行った。来年度も定期的に各種のセミナーを予定している。

⑥ 快適な学生生活への支援

- ・ 学友会活動の運営支援

5 月に実施する全学挙げての体育祭、10 月の白鷺祭（大学祭）の運営支援を行った。

- ・ 学生生活実態調査、寮生アンケート、意見箱、学長と語る会、リーダーズキャンプ等を実施し、学生の意見を集約し、改善に努めた。
- ・ 学友会、学生生活向上委員会を中心に学内清掃活動等も積極的に行った。
- ・ 9 月に全学（学生・教職員）に対して学内避難訓練を実施した。光風寮においては避難訓練を春・秋 2 回実施し、寮生を 2 班に分け、避難経路、防災器具の取扱説明を行い意識向上をはかった。
- ・ レンタルサイクルやレンタル傘等の日常生活支援
 学生用に自転車 8 台、傘 70 本常備し学生への便宜を図っている。利用者数は自転車 603 台 傘 294 本の利用があった。大変好評である。

5 図書館活動の充実

① 学生の図書館利用の促進

学部・学科と協力し、図書館利用のためのガイダンスを随時行っている。そのうち、新入

生オリエンテーションは全新入生に対して年度当初に行った。より実践的な情報検索リテラシーは、前期・後期を通じクラス・セミナー・ゼミ単位で随時受け付け、授業の1コマを使って行った。

学生の知的興味を刺激するために、教養的なまんがを集めた「まんがコーナー」を設置した。これに伴い、昨年度までは他の図書と同じように書架に配架していたまんが教養書をこのコーナーに移動した。

② 大学の知的財産の積極的活用

図書館システム未登録の図書館資料（主に視聴覚資料）の入力を進めており、旧音楽科から図書館に戻ってきたLPについては入力が完了した。引き続きCDの入力作業をしている。また、数年来作業をしている各大学の紀要のコンテンツも引き続き入力している。これらの作業に当たっては、学生アルバイトを活用した。

機関リポジトリでWeb公開している本学紀要は、63件追加し892件になった。

③ 地域における図書館機能の強化

岡山県立図書館と結び、既に運営していた岡山県図書館横断検索・相互貸借に加え、インターネット資料予約・資料相互返却も行えるようにした。これにより、本学図書館で、岡山県立図書館の利用者カードも発行できるようになった。

また、図書館主催の講座として「図書館 de プチ講座」を6月と9月に、「えほん講座(図書館でクリスマス2017)」を12月に開催した。

その他、子ども学部主催のシンポジウム「絵本って、オモシロイ子どもと共にー」(一般にも公開)、地域文庫プーさん図書館主催の勉強会「プーさん横丁 楽しいかみしばい講座」を共催した。

④ 学生協働の図書館

学生サポーター・学生アルバイトは図書館業務のサポートを担っている。今年度はポスター・チラシの作成や、館内掲示物などに学生サポーターが活躍している。日々の図書館業務(カウンター業務・配架作業)などは、学生アルバイトが積極的に行っている。また、テーマを決めて図書館資料を展示する「テーマ展示」を前期に2回行った。展示する資料・ポップ・並べ方はすべて学生に任せた。

今年度はサポーター登録していない学生がボランティアとして配架作業を手伝ってくれた例もあった。

選書活動としては6月に紀伊国屋書店岡山クレド店にて、ブックハンティングツアーを行った。ツアー募集に応えた学生11名が熱心に選書を行った。後期は学生アルバイト・サポーターを中心に、出版カタログからの選書を行った。これら学生が選書した図書は、学生選書図書コーナーで展示している。

図書館は学生の日頃の学習成果発表の場も供しており、授業成果物の展示、「えほん講座」でのハンドベル演奏や手遊び、絵本の読み聞かせなどを行った。

6 社会的責任・地域貢献への取組みの推進

地域社会との連携・良好な関係構築を、社会的使命並びに本学の存在価値向上のキーファクターと捉え、引き続き地域活性化・地域創生を目的に事業を展開する。

地域連携センターの機能とエクステンションセンターを一体的に統合し、人的機能も効率的な活用に努めるとともに土曜講座や専門的講座を充実し、地域に愛され開かれた大学として、地域への文化発信機能を充実し事業展開を図る。

【エクステンションセンター（地域連携部門）】

【教育支援人材育成事業】

講座名・講義内容（担当者）	対象	日程・会場	受講者
「備中子どもサポーター育成講座」 「こどもサポーター」の90分×8コマを実施。 4コマは「初級者向け」の内容で、「子どもパートナー」の認証もできる。 (中、土田、外部講師)	学童保育の支援員等	5月16日(火) 笠岡市保健センター 6月13日(火) 里庄総合文化ホール 6月29日(木) 浅口市寄島公民館	延べ971名

		9月14日(木) 芳井町生涯学習センター 10月17日(火) 矢掛町農村環境改善センター 11月30日(木) 笠岡市民会館 12月5日(火) 里庄総合文化ホール	
「教育支援人材認証講座 in 総社南高校」 パートナーのカリキュラムを実施。 (中田、坂田、福森、外部講師)	高校生	6月25日(日)、 7月9日(日)、 7月17日(月・祝) 岡山県立総社南高校	22名
子どもパートナー認証講座 「あそびのタネ展」 ・「小学生といちごケーキをつくろう！」	大学生 高校生 小学生	中国学園 3月27日(火) 3月28日(水)	26名 52名
青少年体験活動推奨事業 アドバイザー経験者講習会 (中田、外部講師)	一般	9月14日(日)	7名 ジュニア 52名
第13回児童英語教育講座 「小学校英語教育のこれから」 (大橋、外部講師)	一般	11月12日(日)	20名

【地域活動支援・学生参加事業】

■日ようび子ども大学

実施内容(担当者)	日程・会場	参加者数	参加学生
中国学園大学子ども学部子ども学科 (中田、槇尾、坂田) 作って遊ぼう！親子で工作教室！！	6月4日(日) 岡山県生涯学習センター	1,587名	15名
中国短期大学保育学科(角田) 親子で「おいしいかき氷」をつくろう！			18名
総合受付(交代制)			5名

■エコナイト

実施内容(担当者)	日程・会場	参加者数	参加学生
ミニエコ講座とアコースティックライブ 会場をライトダウンし、エコキャンドルの 灯りの中で教員によるミニエコ講座、教員・ 学生によるアコースティックライブ(寺山)	中国学園第1学生ホール	50名	40名

■まちかど博物館

実施内容(担当者)	日程・会場	参加者数	参加学生
第13回吉備・陵南まちかど博物館(寺山) 学生によるオープニングフラワーパレード	吉備・陵南地区	100名	19名
第13回吉備・陵南まちかど博物館 会場ボランティア(寺山)			26名
中国学園和太鼓サークル『鼓魂』による 演奏			5名

■土曜”楽”習講座

講座名	実施日	講師	参加者数
勉強方法	4月22日(土)	総合生活学科 講師 仁宮 崇	7名
こころのふしぎ体験—「見ること」「分かること」覚えること—	5月20日(土)	子ども学部子ども学科 講師 國田 祥子	5名
保健統計から日本を見てみましょう	6月17日(土)	現代生活学部人間栄養学科 教授 嶋田 義弘	7名
料理教室1 (男の料理教室)	7月1日(土)	現代生活学部人間栄養学科 教授 福田伸治 講師 田村理恵	27名
福祉ってなあに?—共に生きる社会を考える—	7月29日(土)	保育学科 専攻科介護福祉専攻 准教授 中野 ひとみ	5名
フォトショップ・エレメンツ フォトレタッチ	8月26日(土)	総合生活学科 准教授 藤田 悟	7名
保育と絵本	9月2日(土)	子ども学部子ども学科 講師 坂田 季穂	6名
料理教室2 (男の料理教室)	10月21日(土)	現代生活学部人間栄養学科 教授 福田伸治 講師 田村理恵	24名
親子で体感! からだと心のワクドキ体操	11月11日(土)	保育学科 准教授 土田 豊	大人3名 子ども4名
小麦ねん土で”ミニ野菜”をつくろう!	12月9日(土)	保育学科 教授 角田 みどり	大人7名 子ども9名
「自分力」の磨き方—歴史”楽”習を通して	1月27日(土)	中国学園大学・中国短期大学 学長 松畑 熙一	11名
英語の間違いを修正しよう	2月10日(土)	国際教養学部国際教養学科 准教授 森年ポール	3名
		合計	125名

■専門講座

講座名	実施回数	講師	在籍者数
コーラス講座〈コールかやの木〉	20回	子ども学部子ども学科 非常勤 講師 小野容子 保育学科 元 非常勤講師 森田美智子	31名
ハンドベル講座〈華音〉	金曜日 20回 土曜日 18回	音楽科 元非常勤講師 小川 詠子	16名
和太鼓講座〈白鷺〉	24回	子ども学部子ども学科 非常勤講師 土師 範子	13名
情報基礎 Word&Excel2016	16回	情報処理センター 赤木 竜也	5名
キッズイングリッシュ	3回	子ども学部子ども学科 准教授(嘱託) 藤井佐代子	19名
川崎紫明音符ビッツ体験講座	5回	保育学科 教授 大山佐知子	大人9名 子ども5名

吹奏楽講座(しらさぎシンフォニックバンド)	20回	情報ビジネス学科 教授 河田 健二	8名
		合計	106名

■白鷺祭講座

	実施日	会場	参加者数
人間栄養学科 10/14「卒業制作発表」 10/15「人間栄養学科3年生はこんなことに取り組みました」	10月14日(土) 10月15日(日)	1号館1階、2階	414名
子ども学科 10/14・15「子どもの広場」	10月14日(土) 10月15日(日)	12号館4階、5階	470名
国際教養学科 10/14・15「海外オリエンテーション in Cebe」報告展示会 10/15「アメリカン・ルーツミュージック・フェスティバル」	10月14日(土) 10月15日(日)	7号館イングリッシュカフェ 8号館音楽ホール	220名
		合計	1,104名

■公開セミナー

講座名	実施日	講師	参加者数
第111回タイ国 JICA ボランティア等理解促進調査報告	4月26日(水)	国際教養学部国際教養学科 准教授 佐々木 公之	13名
第112回放課後児童クラブの現状と放課後児童支援員の養成	10月25日(水)	現代生活学部人間栄養学科 准教授 中田 周作	8名
		合計	21名

7 教職員の意識改革と教育・研究方法の改善

優秀な教職員を安定的に確保し、その資質向上を図ることは学校法人の重要な課題である。授業内容・方法の改善を目指した組織的な取り組みであるFD(ファカルティ・ディベロップメント)と職員の資質向上のための組織的な取り組みであるSD(スタッフ・ディベロップメント)活動を積極的に進めるため、次のことを実施した。

- ・FD委員会の活性化
- ・FD研修会(3回)の実施と授業へのフィードバック
- ・公開研究授業の拡大と充実
- ・学生による授業アンケートの改善・充実と集計結果の公表
- ・シラバスの改善・充実
- ・SD委員会の活性化
- ・SD研修会(4回)の実施による職員の資質向上

8 自己点検・評価及び認証評価の取組みの推進

平成14年に学校教育法の一部が改正され、平成16年度から、全ての大学は、7年に一度教育研究・組織運営・施設設備及び財務等の総合的状況について第三者の評価(機関別評価)を受ける義務が生じている。

本学は、短期大学が平成27年度に(財)短期大学基準協会の2巡目の評価を受け適格認定書の交付を受けた。また、大学においても、平成28年度に(財)日本高等教育評価機構の2巡目の評価を受け適格認定書の交付を受けた。

大学、短大とも第3クールでは基準を変更し新たな評価が始まるため、これに対応した体制を整備し取り組みを進めている。

9 経営基盤の強化

① 円滑な管理運営

ア. ガバナンスの確立

私立学校の経営体制の安定と財政基盤の充実には、ガバナンスの確立が必要である。理事会の法人業務の最終意思決定機関としての位置付けや学内理事による常任理事会の設置により、円滑な大学運営を図る。「理事会業務委任規則」等の確実な実施運営や常任理事会の充実等、内部監査組織の機能強化とコンプライアンスに努めた。

イ. リスク管理体制の構築

平成28年度に取りまとめた危機管理マニュアルを基に、危機管理と危機対策を推進するとともにコンプライアンスの強化を図った。

- ・ 有人警備の効率的運用
- ・ 法改正に伴う防災組織(消防組織、火災訓練等)の確立
- ・ 学生の避難訓練の実施(平成29年9月1日)
- ・ ネットワーク環境とセキュリティ管理のさらなる充実 等

② 健全な財政運営

ア. 財政基盤の強化

- ・ 科学研究費補助金をはじめ外部資金の積極的な導入を図るとともに、在学生数とこれを支える教員・事務組織を適正化に留意し、運営上の収支均衡を図る。

人件費比率 (人件費/経常収入)	平成28年度	平成29年度
	62.2%	66.0%

- ・ 教育研究の充実のため、収入とのバランスを図りながら、必要な経費を投下し、教育環境の維持改善を図る。

教育研究経費比率 (教育研究経費/経常収入)	平成28年度	平成29年度
	35.4%	35.6%

- ・ 管理経費については、施設設備、各種システムの維持管理の見直し及び光熱水費等管理経費の適正な抑制に努める。

管理経費比率 (管理経費/経常収入)	平成28年度	平成29年度
	7.6%	8.9%

イ. 施設設備及び各種システムの整備充実

質の高い教育研究の展開を可能にするために、施設設備の整備、各種システムの構築、更新・充実を引続き進めた。

- ・ 公共下水が整備されたことの伴い光風寮の公共下水切替1期工事を実施した。
- ・ 7・8号館系統空調機修理や本館給水配管工事、光風寮居室内裝修繕などを実施した。

主な修繕工事等

単位：円

工事名称等		施工箇所等	金額(円)	備考
1	公共下水切替1期工事	光風寮	9,612,000	
2	給水配管工事	本館1階食堂 WC系統	345,600	
3	空調機修理	7・8号館系統(8号館機械室)	1,134,000	
4	空調機修理	本館1階機械室	2,160,000	
5	空調室外機修理	10号館就職支援課	391,640	
6	空調機点検修理	本館1階Yショップ内	216,000	
7	排気ダクト修理	1号館屋上	172,800	
8	エレベーター制御盤取替	図書館	183,600	
9	移報ケーブル入替	9・10号館系統	324,000	
10	プロジェクター修理・移設	11号館	232,200	
11	照明器具改修	K-304	243,000	
12	居室修繕	光風寮	559,440	
13	エアコンクリーニング一式(27台)	光風寮	145,800	
14	エアコン修理	光風寮	334,800	
計			16,054,880	

ウ. E C O対策への取り組み

本学のE C O対策への取り組みについては、従前から、建物のトップライト方式や冷暖房設備を吸収式冷暖房設備からGHP（ガスヒートポンプ）冷暖房設備への切替え等を実施しているところである。

平成25年2月に竣工した体育館においても、アリーナとステージの照明設備をすべてLED照明とすると共に太陽光発電設備を設置するなどの取り組みを行っている。3・4号館の大規模改修工事でも、トイレ照明を人感センサー式とし、講義室等のダウンライトはLED照明とした。

照明器具を更新する際にはLED照明にするるとともに人感センサーによる点灯時間の短縮を行っている。

また、クールビズ、ウォームビズを実践し適正な室内温度管理に努め、E C O対策への取組を進めている。

エ. 職員の給与

本法人の職員給与については、国家公務員の退職手当支給率の改正に伴い、私立大学退職金財団の交付率にあわせて改正を行った。また、俸給、期末・勤勉手当についても、国家公務員の人事院勧告等を勘案して、平成28年4月1日改定をした。

平成29年度は、本学の状況を鑑み職員の給与の改定は行わなかった。

6. 教育研究の概要

①教育研究上の基本となる組織に関する情報

大学等	学部・研究科等	学 科	課程等
中国学園大学	現代生活学部	人間栄養学科	
	子ども学部	子ども学科	
	国際教養学部	国際教養学科	
	現代生活学研究科		人間栄養学専攻
	子ども学研究科		子ども学専攻
中国短期大学	総合生活学科		
	保育学科		
	情報ビジネス学科		
	専攻科		介護福祉専攻

②教員組織及び教員数並びに教員の保有学位、業績に関する情報

大学等	学部・研究科等	学 科	教員数
中国学園大学	現代生活学部	人間栄養学科	24人
	子ども学部	子ども学科	18人
	国際教養学部	国際教養学科	(3年目) 15人
	現代生活学研究科	(人間栄養学専攻)	(基礎学部を含む)
	子ども学研究科	(子ども学専攻)	(基礎学部を含む)
中国短期大学	総合生活学科		7人
	保育学科		14人
	情報ビジネス学科		6人
	専攻科介護福祉専攻		(基礎学科を含む)
【教員の保有学位または職務上の実績等】 ※ 別冊 資料			

③学生に関する情報

【学生数等】

(平成29年5月1日現在)

大学等	学部・研究科等	入学者数	収容定員	在籍者数
中国学園大学	現代生活学部 人間栄養学科	49	328	261
	子ども学部 子ども学科	95(4)	300	339
	国際教養学部 国際教養学科	23(1)	330	69
	現代生活学研究科 人間栄養学専攻		10	2
	子ども学研究科 子ども学専攻	2	10	4
	小 計	169(5)	978	675
中国短期大学	総合生活学科	49	170	107
	保育学科	109	240	246
	情報ビジネス学科	61	160	115
	専攻科 介護福祉専攻	6	40	6
	小 計	225	610	474
合 計		394(5)	1,588	1,149
注 () は内数で編・転入者を含む				
<p>【大学：入学に関する基本的な方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代生活学部 人間栄養学科：中国学園大学学則第1条の2の第1号による ・子ども学部 子ども学科：中国学園大学学則第1条の2の第2号による ・国際教養学部 国際教養学科：中国学園大学学則第1条の2の第3号による ・現代生活学研究科 人間栄養学専攻：中国学園大学大学院学則第1条の2の第1号による ・子ども学研究科 子ども学専攻：中国学園大学大学院学則第1条の2の第2号による ・総合生活学科：中国短期大学学則第1条の2の第1号による ・保育学科：中国短期大学学則第1条の2の第2号による ・情報ビジネス学科：中国短期大学学則第1条の2の第3号による ・専攻科 介護福祉専攻：中国短期大学学則第41条の2による 				

④学習環境に関する情報

大学等	キャンパス	学部・研究科等	所在地	主な交通手段
中国学園大学	庭瀬 キャンパス	現代生活学部 人間栄養学科 子ども学部 子ども学科 国際教養学部 国際教養学科 現代生活学研究科 人間栄養学専攻 子ども学研究科 子ども学専攻 総合生活学科 保育学科 情報ビジネス学科 専攻科 介護福祉専攻	岡山市北区庭瀬 83 番地	山陽本線庭瀬駅 下車 徒歩 15 分
中国短期大学		撫川グランド (認定こども園建設予定地)		

⑤学生納付金に関する情報

学部・学科		授業料		入学料		その他の費用徴収	
		金額	納入時期	金額	納入時期	金額	納入時期
中国 学園 大学	現代生活学部 人間栄養学科	50 万 円	4 月 20 日 10 月 20 日	25 万 円	入学手続時	50 万 円	4 月 20 日 10 月 20 日
	子ども学部 子ども学科	50 万 円	4 月 20 日 10 月 20 日	25 万 円	入学手続時	40 万 円	4 月 20 日 10 月 20 日
	国際教養学部 国際教養学科	64 万 円	4 月 20 日 10 月 20 日	25 万 円	入学手続時	40 万 円	4 月 20 日 10 月 20 日
	現代生活学研究科 人間栄養学専攻	40 万 円	4 月 20 日 10 月 20 日	25 万 円	入学手続時	30 万 円	4 月 20 日 10 月 20 日
	子ども学研究科 子ども学専攻	40 万 円	4 月 20 日 10 月 20 日	25 万 円	入学手続時	20 万 円	4 月 20 日 10 月 20 日
中国 短期 大学	総合生活学科 保育学科 情報ビジネス学科	41 万 円	4 月 20 日 10 月 20 日	25 万 円	入学手続時	38 万 円	4 月 20 日 10 月 20 日
	専攻科 介護福祉専攻	40 万 円	4 月 20 日 10 月 20 日	25 万 円	入学手続時	35 万 円	4 月 20 日 10 月 20 日

【授業料減免制度等の概要】

- ・減免対象の種類、要件
- ・必要手続等

○入学料は、本学の卒業生に限り免除とする

○特待生のための試験において選抜する学業成績優秀者

A: 入学金免除及び授業料（1年間）の全額免除

B: 入学金免除及び授業料（1年間）の半額免除

○入学試験において特に成績優秀であった者は、入学金免除及び授業料（1年間）の半

額免除

- 経済的に修学が困難になった者で成績良好な者の修学支援優待生、授業料（1年間）の半額免除
- 本学卒業生を保護者（戸籍上の親）とする新生入生、入学金の免除
- 本学に兄弟姉妹が同時期に在学する場合、その在学期間の弟又は妹、の授業料 1/3 相当額免除

⑥学生支援と奨学金に関する情報
〈学生支援機構〉

区 分	組 織 名	機 能
就職支援	就職支援センター	面接重視による希望と納得を踏まえた就職活動の支援。企業開拓（求人開拓）、就職ガイダンスやeラーニング、インターシップ等の推進によるキャリア形成支援
	エクステンションセンター (学生支援部門)	保育士、幼稚園教諭、小学校教諭などの採用試験対策として、専門試験、面接練習、一般教養試験、論文作成等の指導と採用試験説明会や講師登録説明会を行い支援している
生活支援 (住居、アルバイト等)	学生課	学生課職員が掲示・パソコン等を通じて学生に随時紹介している
保健・衛生	保健室	専門職員を配置し、健康に関する相談、けがや病気の応急措置等に対応している 定期健康診断の実施及び健康診断証明書の発行
メンタルヘルス	学生相談室	専門職員がインテーカーとして対人関係・学業・進路・心の健康等の相談に応じている

〈奨学金〉

種 類	要 件	申 込 方 法
日本学生支援機構 第1種（無利子） 第2種（有利子）	人物、学業ともに優秀、健康 経済的理由による修学困難	本人の願い出により選考し、日本学生支援機構へ学生課を経由して推薦
地方公共団体による奨学金 ・岡山市奨学生 ・倉敷市奨学生	それぞれ市内居住者またはその子ども 人物、学業ともに優秀、健康 経済的理由により修学困難他の奨学金を受けていないこと等	本人が直接該当市教育委員会事務局へ申請 担任による推薦調書が必要
ノートルダム育英財団	岡山県内の大学・短大に在学する学生（1年・院博士課程は除く） 人物、学業ともに優れ、将来社会貢献を期待できる者	本人の願い出により、学生課を経由して推薦 指導教官の推薦書が必要
あしなが育英会	保護者（父・母）病気や災害若しくは自死などにより、著しい後遺症を負い、教育費に困っている家庭の子ども	本人の願い出により、学生課を経由して推薦 学長または学部長の推薦が必要

島根育英会	島根県出身で、学校教育法に基づく大学・短大・大学院・高等専門学校（4年生以上）、専修学校（専門課程）に進学しようとする者、または在学生の内、人物、学業ともに優秀で、学費支弁の困難と認められる者	高等学校卒業見込み者は出身高等学校を經由して申請書の提出 大学・短大は本人が直接育英会事務局へ提出 担任の推薦調書が必要
交通遺児育英会	保護者等が交通事故で死亡したり、重い後遺障害のため働けず、経済的に修学困難な学生	本人の願い出により、学生課を經由して推薦 学長または学部長の推薦書が必要
公益財団法人 小松奨学財団	人物・学業ともに優秀で経済的援助が必要と認められた者	本人の願い出により、学生課を經由して推薦 学長または学部長の推薦書が必要
公益財団法人 ハローズ財団	学術優秀、健康、品行方正で経済的な理由により学費の支弁が困難な者	本人の願い出により、学生課を經由して推薦 学長または学部長の推薦書が必要
一般社団法人 生命保険協会	保育士養成のための学科に在籍し、将来保育の専門職として活躍する志を持った学生 学業・人物ともに優秀でかつ健康で修学において経済的援助を必要とする学生	本人の願い出により、学生課を經由して推薦 学長の推薦書が必要

〈特待生・優待生等〉

種 類	減免額等	対 象	対象学生
学業成績特待生制度 (新入生)	入学金免除及び授業料（1年間）の全額又は半額免除	特待生のための試験を実施して選抜	大学1年次生 各学部2名
学業成績優待生制度 (在学生)	入学金免除及び授業料（1年間）の半額免除	入学試験において特に成績優秀であった者	短大1年次生 全学科で6名
学業成績特待生制度 (在学生)	10万円の給付	学業、人物ともに優れた者	大学3・4年次生 短大2年次生 学生40名につき1名
経済的修学支援 優待生制度	授業料（1年間）の半額免除	経済的に修学が困難になった者で成績良好な者	大学・短大全学年 両大学で15名以内
卒業生の子の 入学優待制度	入学金の免除	本学卒業生を保護者（戸籍上の親）とする新入生	大学・短大1年次生 該当者全員
兄弟姉妹学生 支援制度	在学期間中の弟妹の授業料1/3相当額	本学に兄弟姉妹が同時期に在学する場合、その在学期間の弟または妹	大学・短大全学年 該当者全員
沖縄県等遠隔地学生 支援制度	入学金の免除及び寮費、管理費の半額免除	沖縄県からの入学者	大学・短大全学年 該当者全員

7. 財務の概要

(1) 資金収支の推移（法人全体）

資金収支計算書は当該会計年度（4月1日から翌年3月31日）に行った諸活動に対応する全ての資金の動きを記録することによって、当該年度の収入と支出の内容を明らかにし、資金の顛末を表すものです。

法人名：学校法人 中国学園

資金収支計算書の状況

（単位：千円）

収入の部			
科 目	平成27年度	平成28年度	平成29年度
学生生徒等納付金収入	1,082,254	1,122,198	1,110,989
手数料収入	18,310	15,871	14,880
寄付金収入	6,000	6,000	6,200
補助金収入	177,663	169,651	115,528
国庫補助金収入	176,612	167,725	113,409
地方公共団体補助金収入	1,051	1,926	2,119
資産売却収入	1,470,000	632,111	1,858,064
付随事業・収益事業収入	22,402	23,553	21,576
受取利息・配当金収入	58,642	63,181	53,595
雑収入	65,814	62,064	57,511
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	304,580	271,721	280,176
その他の収入	321,877	326,551	315,720
資金収入調整勘定	△ 380,238	△ 361,911	△ 325,668
前年度繰越支払資金	1,360,815	921,011	975,575
収入の部合計	4,508,119	3,252,000	4,484,147
支出の部			
科 目	平成27年度	平成28年度	平成29年度
人件費支出	910,813	907,711	920,250
教育研究経費支出	296,401	269,658	265,217
管理経費支出	100,225	101,853	112,956
借入金等利息支出	6,497	5,552	4,968
借入金等返済支出	70,760	30,760	30,760
施設関係支出	59,513	10,492	9,823
設備関係支出	36,192	26,315	37,774
資産運用支出	1,800,000	653,044	1,850,000
その他の支出	337,238	292,805	278,780
資金支出調整勘定	△ 30,531	△ 21,766	△ 25,791
翌年度繰越支払資金	921,011	975,575	999,411
支出の部合計	4,508,119	3,252,000	4,484,147

* 各表は科目ごとに千円未満を四捨五入しているため、合計が一致していない場合があります。

(2) 事業活動収支の推移（法人全体）

事業活動収支計算書は当該会計年度（4月1日から翌年3月31日）の事業活動収支の内容を明確にし、基本金へ組み入れる額を控除した事業活動収支の均衡を表すものです。

法人名:学校法人 中国学園

事業活動収支計算書の状況

(単位:千円)

		科 目	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度		
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	1,082,254	1,122,198	1,110,989		
		手数料	18,310	15,871	14,880		
		寄付金	6,184	6,220	6,200		
		経常費等補助金	173,142	165,560	111,868		
		付随事業収入	22,402	23,553	21,576		
		雑収入	65,814	61,606	57,511		
		教育活動収入計	1,368,105	1,395,007	1,323,024		
	事業活動支出の部	科 目	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度		
		人件費	872,924	907,581	909,202		
		教育研究経費	543,038	516,012	489,715		
		管理経費	109,223	111,097	121,840		
		徴収不能額等	0	395	1,173		
教育活動支出計		1,525,186	1,535,084	1,521,930			
教育活動収支差額			△ 157,080	△ 140,078	△ 198,907		
教育活動外収支	事業活動収入の部	科 目	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度		
		受取利息・配当金	57,243	63,229	53,644		
		教育活動外収入計	57,243	63,229	53,644		
	事業活動支出の部	科 目	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度		
		借入金等利息	6,497	5,552	4,968		
		教育活動外支出計	6,497	5,552	4,968		
教育活動外収支差額			50,746	57,677	48,677		
経常収支差額			△ 106,334	△ 82,401	△ 150,230		
特別収支	事業活動収入の部	科 目	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度		
		資産売却差額	0	3,016	8,058		
		その他の特別収入	4,521	4,550	4,275		
		特別収入計	4,521	7,566	12,334		
	事業活動支出の部	科 目	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度		
		資産処分差額	5,882	1,947	2,461		
		その他の特別支出	28,008	28,000	28,001		
		特別支出計	33,890	29,947	30,462		
		特別収支差額			△ 29,369	△ 22,381	△ 18,129
		基本金組入前当年度収支差額			△ 135,704	△ 104,782	△ 168,359
基本金組入額合計			△ 127,784	△ 2,000	△ 35,784		
当年度収支差額			△ 263,488	△ 106,782	△ 204,143		
前年度繰越収支差額			△ 1,075,000	△ 1,338,488	△ 1,439,777		
基本金取崩額			0	5,492	0		
翌年度繰越収支差額			△ 1,338,488	△ 1,439,777	△ 1,643,920		
(参考)							
事業活動収入計			1,429,869	1,465,802	1,389,002		
事業活動支出計			1,565,572	1,570,584	1,557,361		

* 各表は科目ごとに千円未満を四捨五入しているため、合計が一致していない場合があります。

(3) 貸借対照表（資産の状況）の推移（法人全体）

貸借対照表は期末（会計年度末：3月31日）における資産・負債・純資産（基本金および繰越収支差額）を把握し、財政状態の健全性を表すものです。

法人名：学校法人 中国学園

貸借対照表の状況

（単位：千円）

資産の部 科目	平成27年度	平成28年度	平成29年度
固定資産	8,595,867	8,193,485	7,216,816
有形固定資産	6,518,626	6,298,985	6,112,073
土地	1,304,369	1,314,646	1,314,646
建物	4,368,265	4,194,618	4,030,295
構築物	200,635	183,377	165,844
教育研究用機器備品	241,395	197,473	175,824
その他の機器備品	9,189	9,922	11,893
図書	394,732	398,908	403,710
車両	40	40	40
建設仮勘定	0	0	9,823
特定資産	0	0	0
その他の固定資産	2,077,241	1,894,501	1,104,743
電話加入権	1,102	1,102	1,102
無形固定資産	148	0	0
有価証券	2,075,766	1,889,764	1,099,813
施設設備拡充引当特定資産	0	0	0
長期未収入金	0	0	0
長期前払金	225	3,635	3,828
流動資産	984,219	1,242,736	2,053,011
現金預金	921,011	975,575	999,411
未収入金	62,308	56,936	52,864
有価証券	0	210,000	1,000,000
前払金	899	225	736
資産の部合計	9,580,086	9,436,222	9,269,827

（単位：千円）

負債の部 科目	平成27年度	平成28年度	平成29年度
固定負債	577,738	573,976	554,604
長期借入金	276,840	246,080	215,320
退職給与引当金	293,088	320,959	337,911
長期未払金	7,810	6,937	1,372
流動負債	391,225	355,905	377,241
短期借入金	30,760	30,760	30,760
未払金	26,487	24,647	31,131
前受金	304,580	271,721	280,176
預り金	29,398	28,777	35,174
負債の部合計	968,963	929,881	931,845
純資産の部 科目	平成27年度	平成28年度	平成29年度
基本金	9,949,611	9,946,118	9,981,902
第1号基本金	9,847,611	9,842,118	9,877,902
第2号基本金	0	0	0
第3号基本金	0	0	0
第4号基本金	102,000	104,000	104,000
繰越収支差額	△ 1,338,488	△ 1,439,777	△ 1,643,920
純資産の部合計	8,611,123	8,506,341	8,337,982
負債及び純資産の部合計	9,580,086	9,436,222	9,269,827

* 各表は科目ごとに千円未満を四捨五入しているため、合計が一致していない場合があります。

(4) 主な財務比率の推移(法人全体)

◆ 事業活動収支計算書関係比率

	比率	計算式	比率の意味	平成27年度	平成28年度	平成29年度
1	人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	経常収入に対する人件費の占める割合を示しています。この比率が適正水準を超えると経常収支の悪化に繋がる要因となります。	61.2%	62.2%	66.0%
2	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	経常収入に対する教育研究経費の占める割合を示しています。この比率は収支均衡を失わない範囲内で高くなることが望ましいとされています。	38.1%	35.4%	35.6%
3	管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	経常収入に対する管理経費の占める割合を示しています。ある程度の支出は止むを得ないものの、比率は低い方が望ましいとされています。	7.7%	7.6%	8.9%
4	経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	経常収入から経常支出を差し引いた経常収支差額の経常収入に対する割合で、経常的な収支バランスを表す比率です。	△7.5%	△5.7%	△10.9%
5	教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	教育活動収入から教育活動支出を差し引いた教育活動収支差額の教育活動収入に対する割合で、本業である教育活動の収支バランスを示す比率です。	△11.5%	△10.0%	△15.0%

* 「経常収入」=教育活動収入計+教育活動外収入計

「経常支出」=教育活動支出計+教育活動外支出計

◆ 活動区分資金収支計算書関係比率

	比率	計算式	比率の意味	平成27年度	平成28年度	平成29年度
1	教育活動資金収支差額比率	$\frac{\text{教育活動資金収支差額}}{\text{教育活動資金収入計}}$	教育活動資金収支差額の教育活動収入に占める割合を示し、本業である「教育活動」でキャッシュフローが生み出せているかを測る比率です。	0.1%	5.6%	3.1%

* 教育活動資金収入計=学生生徒等納付金収入+手数料収入+特別寄付金収入+一般寄付金収入+経常費等補助金収入+付随事業収入+雑収入

教育活動資金支出計=人件費支出+教育研究経費支出+管理経費支出

教育活動資金収支差額=教育活動資金収入計-教育活動資金支出計+教育活動調整勘定等

◆ 貸借対照表関係比率

	比率	計算式	比率の意味	平成27年度	平成28年度	平成29年度
1	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	一年以内に支出しなければならない流動負債に対して、現金預金など現金化が可能な流動資産がどの程度用意されているかという、短期の支払能力を判断する重要な指標です。	251.6%	349.2%	544.2%
2	積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$	施設設備の更新や教職員の退職金資金等、将来の確定的債務等について、どの程度保有資産の裏付けがあるかを表す比率です。この比率は高い方が望ましいとされています。	76.0%	74.1%	71.2%

* 運用資産=現金預金+特定資産+有価証券(固定・流動)

要積立額=減価償却累計額+退職給与引当金+2号基本金+3号基本金